

# ナイジェリアでラッサ熱が流行

2012年9月10日 ProMED 情報 (Leadership)



ナイジェリアのいくつかの地域でラッサ熱が流行しており、ラゴス Lagos 州政府は、先週末(9月8～9日)、住民に対し、感染症拡大に対する予防対策として常に自分自身の衛生状態と生活環境の衛生状態を適切に保つように警告を出しました。ネズミとの接触を避けること、食物を十分調理するとともに食べ物や水をむき出して置かないこと、ネズミが家に侵入しないように穴をふさぐように指示しました。

ラッサ熱は、持続する高熱を伴う急性ウイルス性疾患で、症状が悪化すれば、顔面が腫れ、胸水が溜まり、口や鼻、膣、腸管から出血をおこし、血圧が下がり、ショックになり、昏睡状態におちいり、腎不全や肝不全をきたします。

ネズミの糞や尿によって汚染された食物を食べることによって感染が広がります。また、ラッサ熱患者の血液、尿、糞、またはそのほか身体の分泌物との直接接触により広がります。

〔ProMED 調整者〕

ラッサ熱は人畜共通感染症で、ウイルスを保有している動物はマストミス *Mastomys* です。ラッサ熱は、ギニア、リベリア、シエラレオネ、ナイジェリアの一部の地域で見られる風土病ですが、西アフリカでは他の地域にも存在していると思われます。ヒトに感染しても80%のヒトは無症状ですが、残りのヒトは重篤な多臓器不全になります。潜伏期は6～21日です。